

2022年2月10日  
第149回運輸政策コロキウム バンコクレポート  
～スタートアップシリーズその4～

宿利会長 開会挨拶

皆様、おはようございます。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。  
本日の運輸政策コロキウムにも、多くの皆様にご参加いただいております。  
誠にありがとうございます。

本日は当研究所の「アセアン・インド地域事務所」、AIRO（アイロ）から、「バンコクレポート・スタートアップシリーズ」の第4回をお届けしますが、その前に今週7日にオンラインで開催しました「マレーシアにおけるコールドチェーン普及啓発セミナー」について一言ご報告いたします。

このセミナーは、マレーシアをはじめASEAN地域の物流事業者、荷主等に対して、コールドチェーン物流サービスの品質向上の重要性に関する理解を醸成するため、当研究所が AIRO と連携し、国土交通省及びマレーシア運輸省と共同で開催したものです。

当日は、マレーシア、フィリピン、インドネシアなどのASEAN地域在住の皆様約360名を含め、約700名の皆様に参加申し込みをいただき、有意義なセミナーとなりました。

今後も、AIRO 及びASEAN地域・南アジア地域の皆様と連携し、このような取り組みを充実させていくつもりです。

さて、本日のバンコクレポートでは、バンコクから AIRO の南研究員より、アジアの都市交通の新たなステージ ～バンコクにおける鉄道とバスの結節機能の現況と今後～ と題して研究発表を行います。

タイでは近年、レッドラインの開通やブルーライン、BTS の延伸など都市鉄道の整備が進んでおり、首都バンコクを中心に着実に路線網を拡大しつつあります。

その一方で、これまで公共交通の中心を担ってきたバス事業は、利用者の減少が続き、累積債務を抱えるなど厳しい経営状況にあります。

本日のコロキウムでは、まず、バンコクにおける鉄道とバスの利便性の改善と利用者の増加に向け、双方の結節機能に着目して、現地で行った調査や分析結果から見えてきた課題、政策の動向、そして改善に向けた考察と示唆について、南研究員より発表いたします。

次に、日本大学の福田 敦教授より、バンコクの鉄道整備における行政と事業者の役割や課題、また将来展望などについてコメントをいただきます。

福田先生は、JICA が実施したタイ国バンコク・チェンマイ高速鉄道整備事業準備調査や、バンコク首都圏都市鉄道マスタープランの改定 (M-MAP2) に係る情報収集・確認調査でアドバイザーを務めるなど、タイの運輸交通分野でご活躍されており、タイの政策や人脈にも大変精通しておられます。

その後、当研究所の山内所長をモデレーターとしてディスカッション、質疑応答を予定しております。

主催者として、本日のコロキウムが、ご参加いただきました皆様にとりまして真に有益なものとなることを期待しております。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。

以上